

### 審議会等の会議の記録

会議の名称	令和4年度 伊勢崎市いじめ問題対策連絡協議会
開催日時	令和4年7月26日(火) 10:00~11:00
開催場所	伊勢崎市役所 北館4階 会議室
出席者氏名	松村会長 野口副会長 中村委員 矢島委員 井野委員 神保委員 堀込委員 竹田委員 佐々木委員 笹川委員 浅見委員 事務局(小保方、後藤、高村、佐藤、長竹)
傍聴人数	0人
会議の議題	「子供たちの健全育成のために、今、私たちがすべきこと、していること~いじめから子供たちを守るために~」
会議資料の内容	伊勢崎市いじめ防止基本方針、いじめ問題対策連絡協議会等条例、伊勢崎市いじめ問題対策連絡協議会規則、伊勢崎市いじめ防止組織図他
会議における議事の経過及び発言の要旨	<p>《第Ⅰ部》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 委嘱状交付</li> <li>2 挨拶</li> <li>3 自己紹介</li> <li>4 会議の趣旨説明</li> <li>5 役員選出</li> </ol> <p>《第Ⅱ部》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 伊勢崎市におけるいじめの現状と対策の説明</li> <li>2 協議</li> </ol> <p>(各委員より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインゲーム上でのいじめ・トラブルが看過できない状況にある。ゲームで仲間に入れる、仲間から外す、攻撃的な言葉を発す。家庭での出来事で学校として指導が入りづらい状況がある。</li> <li>・いじめ防止の取組として、笑顔を大切にしている。担任は朝、笑顔で児童を迎え、笑顔で家庭へ帰す。家庭でも笑顔で送り出してもらうようお願いしている。</li> <li>・居心地の良い学校・学級作り、子供の居場所作りに取り組んでいる。その中で、クラスの一員として認められている、家庭でも大切にされているという自己肯定感を高め、思いやりのある子に育てていくことで、いじめ防止につなげていきたい。</li> </ul>

・いじめの対策として、毎月アンケート調査を実施し、先生に相談するきっかけ作りをしている。また、生徒は毎日担任に提出する生活ノートに、日々の出来事や思いを書いている。担任は助言や励ましの言葉を書き、生徒とのやりとりを行っている。

・先生にはいじめを見抜く感性を磨いていくことが必要であると考えている。経験年数等により個人差はあるが、毎週行われる生徒指導部会や教育相談部会で問題や悩みを抱えている生徒1人1人を丁寧に確認することで、情報共有を図っている。

・最近のSNS上のトラブルはLINEからInstagramに移ってきている。不特定多数が書き込むため、加害者の特定がしづらい。また、保護者からの相談が増えてきているので、保護者の声を丁寧に聴くなど、連携していきたい。

・コロナの影響もあり、自己肯定感を高める取組が減っている。Withコロナの取組として、生徒が活躍できる機会を増やしていきたい。

・法務局は人権相談、啓発活動、救済活動を行っている。

・近年、いじめが多様化し、見にくくなっている。些細な行為が危険な行為に発展していく。見て見ぬふりをする傍観者、人権尊重の希薄化がいじめにつながっている。個性を尊重し、人権意識を高める必要がある。

・主な取組をして、SOSミニレターを各学校へ配付、電話やメールでも相談を受けている。人権教室の開催、携帯電話会社が実施している安全教室とも連携している。人権作文コンテストを実施し、多くの学校から応募してもらっている。

・いじめ防止のためには想像する力、連想する力が必要だと考える。ごっこ遊び、絵本や物語の世界など多くの遊びを幼い頃から積み上げていくことで、想像する力は培われる。社会で子供を見守り、育てていくことが大切である。

・教育的な配慮をしながらも警察として対応していきたい。子供からの聞き取りなど学校との連携は欠かせない。被害生徒の生命を守る。

・学校との情報交換をしっかりとっていきたい。地域ではマスクをしていてもコミュニケーションをとっていく取組として、あいさつ運動を実施している。

・年3回、健全育成運動実施。学校にはポスターを掲示してもらっている。「おぜのかみさま」を作成し、子供たちをネット犯罪から守る啓発を行っている。

・いじている側といじめられている側の認識の違いがあるように思われる。

・新型コロナウイルス感染から学校に復帰した子へのケアやマスクができない子への配慮など、学校にはいろいろしていただいている。そのようなことがいじめ防止につながっていると思う。

・家庭、学校、地域ぐるみで子供を育てていく取組が大切だと考える。

・電話相談や面接相談など、各種相談を年間通して実施し、相談者の不安の軽減や解消に努めていくために継続していくことが大切だと考えている。